

## 第 49 回日本 PTA 関東ブロック研究大会 群馬大会に参加して

富士市 PTA 連絡協議会

副会長 清 淳也

第 49 回日本 PTA 関東ブロック研究大会 群馬大会に参加させていただきました。台風が迫る中で開催が心配されましたが、無事に開催されました。

21 日の高崎での分科会では第一分科会の組織運営についての研究発表がされていました。

まずはじめに、小学 1 年生から 9 年生(富士市の中学 3 年生)までの小中一貫教育を行っている、千葉県市原市小中一貫教育校の加茂学園の PTA の活動を聞いてきました。

小中一貫教育校になってからまだ 5 年だそうです。創立 100 程を迎える 4 つの小学校が一つになって一貫教育校になったそうです。

当初の問題の一つは、10km にも及ぶ広範囲の学区から通う登下校手段への不安です。これに対しては地域の皆さんが見守り隊として今まで以上に協力することに加えて、開校に合わせてバスの新路線を開通させたり、定期券代を市が負担したりと、地域の皆さんと市が共に協力して解消されたそうです。

また、小学 1 年生から 4 年生までを前期ブロック、5 年生から 7 年生(中学 1 年生)までを中期ブロック、8 年生(中学 2 年生)から 9 年生(中学 3 年生)を後期ブロックという分け方をしています。そのことで小中学校に当たる生徒が仲良く生活することができ、中一ギャップ等の小学校から中学校に変化したことに伴う学力の著しい低下などの解消に繋がっているそうです。

そして、小学 1 年生の入学式に中学 3 年生の生徒が付き添うといったほのぼのとした光景を見ることができそうです。このように日常的な異年齢活動が充実しているそうです。

4 つの小学校から中学校までの広い区域と 9 年間という長い期間にわたって学校に関わっていくので、PTA も学校行事へ積極的な協力をしているそうです。さらに、広範囲でありながら家庭数が少ないため、地域の方々にも協力してもらい、地域全体で学校を支えているそうです。

PTA 活動も活性化しており、女性保護者はバレーボール大会、男性保護者はソフトボール大会、PTA 学年対抗のソフトバレーボール大会といった 3 つの球技大会があるそうです。しかも PTA 親睦旅行もあるそうです。

私も富士市の小中連携・一貫教育検討委員会の委員として、富士市でも小中連携・一貫教育のあり方について様々な議論がされおり、この学校のケースを聞くことが出来て、とても勉強させていただきました。

続いて横浜市の港南台ひの特別支援学校の PTA の方のお話を聞きました。

当初は地域のなかに養護学校建設を不安視する声が多くあったそうで、こういった中で登校させる保護者の苦労があったそうです。

そこで PTA 活動を、地域と学校をつなぐパイプ役となってくれた地元の皆さんと共に活動を進めることで、地域の中で愛される人が集まる学校に成長できたそうです。特別支援学校としてはめずらしく、地元の中学校区放課後連絡会に所属し、近隣校 PTA との連携を深めているそうです。この学校の PTA の使命を、居住区ではない学校に通う児童生徒の保護者として障がいのある子どもたちを地域の中で温かく見守り育てていただけるよう働きかけていくこととしているそうです。

その後は、座談会が開かれました。やはりどこの PTA でも次期役員決定が大変であるということが話されました。

家庭数が少ない地域でも多い地域でもそれぞれの問題を抱えているそうです。また、外国人が多く住んでいる地域の役員選出でも大変ご苦勞されている PTA の役員もいらっしゃいました。

くじで地域から候補者を選出して、その中から選出するといった二段階の選出方法で選出されているところもありました。他には候補者の中から面談をする PTA もあるそうです。

PTA をやってみると意外と良かったという意見も多かったです。出来ない事や普段では会えない方も会えたり、子供たちから多くの声をかけてもらえたりしたことで、自分たちもやりがいを感じる事ができたという意見がありました。

今は子供を取り巻く環境が著しく変化しており、保護者同士や地域との係わりが希薄になっている中で、子供たちにとって安心して心豊かに育てていくためには、PTA の活動等が、何らかの形で子供たちに還元できれば素晴らしいなと思いました。

